

## ご挨拶

校長 村井 浩昭

吉田高等学校同窓会の皆様には、平素より多大な御支援と御協力をいただき、心から感謝いたしております。

私は、この春、歴史と文化の風薫る此処吉田高校に赴任して参りました村井浩昭と申します。吉田三傑の存在は知っておりましたし、その一人村井保固翁と同じ姓であることに縁と誇りを感じております。また、校長室には村井翁の揮毫した書、校訓「自律以行己 忠誠以接人 愛物以利世 邁往以当事」と「聖潔」とが飾られており、毎日見守られております。

今年度もコロナ禍の状況下でのスタートでしたが、新入生 116 名を迎え入れ、入学式を挙行することができました。昨年度の全校生徒数より 16 名増え、318 名でのスタートとなりました。これまでオンラインでの学校行事が多かったのですが、一学期後半から対面の行事もできるようになりました。第 76 回愛媛県高等学校総合体育大会は無事開催され、本校からも予選を経て、ソフトテニス部、バレーボール部、卓球部、陸上競技部、弓道部、剣道部、ハンドボール部、水泳競技の総勢 88 名が出場しました。四国大会にも陸上競技部、弓道部、水泳競技から 3 名が出場しました。夏の高校野球愛媛県大会では、1、2、3 回戦と勝ち進み、59 年ぶりのベスト 8 という輝かしい戦績を残しました。また、ものづくりコンテスト木材加工部門で建築部が県大会、四国大会ともに 1 位、2 位を独占し、全国大会への出場権も得ることができました。

5 月 23 日には、同窓会より小笠原章雄様をお招きし、オンラインではございましたが、「穂積陳重と歌碑等について」という演題で、3 年ぶりの開校記念講演を実施することができました。山下亀三郎氏と穂積陳重氏との関係や渋沢栄一氏の書「優美貞淑」をいただいた経緯、そして、穂積氏の歌碑が本校にあること、それを知り、戦後間もない頃に文部大臣を務められた安倍能成氏が歌碑を見るために来校した際の様子など、本校の歴史にまつわる逸話をお話してくださいました。更に、安倍能成氏の「雲山碧層々」と揮毫された書も頂戴いたしました。調べてみると長年安倍氏が院長を務められた学習院にも「雲山碧層々」と揮毫された書があるということです。貴重なものをいただき感謝の念に堪えません。同日には令和 4 年度第 1 回同窓会並びに同窓会後援会役員会が 3 年ぶりに対面で行われました。開催できましたこと、お喜び申し上げます。

本校では、今年度の重点努力目標を「情理を尽くし、自ら考え、行動する生徒を育成する～精神を修め、知と技を練る吉田高校～」と決めました。私には「情理一体の教育の実践」という教育理念があります。人には、情的感受性と理的感受性があり、バランスのとれた生徒の育成を目指すというものです。「精神を修め」を情的感受、「知と技を練る」を理的感受と捉え、「情理を尽くす」という表現に至りました。これは、お互いを尊重し、慮りながら、主体的に学習に取り組み、進路実現につなげていくという意味の重点努力目標となっています。また、育みたい資質・能力として、思考力・創造力・社会性・主体性・規範意識・人権意識を掲げました。「育む」ということは、その資質・能力に広がりを持たせるということです。学校生活のあらゆる場面で生徒の潜在能力を引き出していけるような教育を推進してまいりますので、お力添えをいただきますようよろしくお願いいたします。